

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業・
茅ヶ崎市災害復興支援ボランティア活動バスパック活動報告

平成23年10月

回数	日程	場所	参加者	活動内容		宿泊所
				土	日	
第1回	6月17日(金)～19日(日)	南三陸町	14	カキいかだ錘砂利袋作り 避難所清掃	写真洗浄	鳴子温泉 幸雲閣
第2回	6月24日(金)～26日(日)	南三陸町	16	ガレキの山の分別片付け	復興祭参加・買い物	〃
第3回	7月1日(金)～3日(日)	南三陸町	16	ガレキの山の分別片付け	ガレキの山の分別片付け	松島 大松荘
第4回	7月8日(金)～10日(日)	南三陸町	19	ガレキの片付け・除草他 避難所見守り、鍼灸マッサージ	津波注意報、避難所薪の薪 の片付け、鍼灸マッサージ	鳴子温泉 幸雲閣
第5回	7月15日(金)～17日(日)	山田町	24	ガレキの片付け	ガレキの片付け	岩泉町龍泉洞温泉 民宿 新田
第6回	7月22日(金)～24日(日)	山田町	23	ガレキの片付け 町役場復興支援打ち合わせ	ガレキの片付け	〃
第7回	7月29日(金)～31日(日)	釜石市	23	ガレキの片付け(子ども広場 他)・大道芸	ガレキの片付け・大道芸	ホテルサンルート釜石
第8回	8月5日(金)～7日(日)	釜石市	22	ガレキの片付け・除草	家屋の2階のたたみ撤去	〃
第9回	9月17日(土)～19日(月)	南三陸町	23	ガレキの片付け	道路側溝ヘドロ出し ガレキの片付け	南三陸町ホテル観洋
第10回	9月23日(金)～25日(日)	南三陸町	24	定置網錘砂利袋作り ガレキの片付け	樹木伐採片付け、民家の側溝 泥だし、鍼灸マッサージ	〃
計			204			

ただし、第9回は都合により(土)～(月)の活動、第6回は現地合流 別に1名参加

■ 実施・協力機関

- ・この活動は市民の皆様が主体的に市民ボランティアして、総括リーダーを中心に様々に活動していただきました。
- ・この事業は茅ヶ崎市災害救援ボランティア支援センター(茅ヶ崎市・茅ヶ崎市社会福祉協議会)が実施しました。
- ・バスの運行、宿泊地は神田交通(株)神田ツーリストの全面的協力と中央共同募金会から活動費の助成を受けました。

■ 寄附物品の送り届け

- ・山田町へ うちわ600、カレンダー
- ・釜石市へうちわ300、布座布団40、衣類
- ・南三陸町へ 浴衣124着、帯小物類(茅ヶ崎ゆかた委員会より茅ヶ崎商工会議所青年部を通して)子供達の絵手紙(海岸青少年会館より)

■ 参加者の感想・赤い羽根共同募金寄付者に伝えたいこと

- ・参加した方は何かしなくてはと気持ちにかられ、地元からバスが出たから、行き帰りが夜遅くても参加することができたとのこと。
- ・ガレキの片付けなど様々に活動ができました。すべてがはじめての体験で、市民の皆様に、緊張と寝不足の中で10回の活動を無事に終了しました。
- ・きれいにガレキの片づけが終了した現場で、依頼者の方から感謝と再起の決意のお話があり、暑い中泥と汗まみれで作業をしたのが報われました。
- ・今回赤い羽根の活動助成金を寄附者の方のおかげで、多くの参加と充実した活動ができましたこと、参加者一同、感謝いたしております。
- ・今後、家族や団体旅行で被災地のホテル・旅館に宿泊し、現地の方とふれあい、市場で新鮮な魚を買う買物ツアーなどいろいろな復興支援活動が考えられます。

6月17日～19日 第1回目 南三陸町にて



受付開始直後。
多くのボランティアさんが受付登録を行っています。



初日は、土のうづくりのお手伝いを行いました。
茅ヶ崎市だけでなく、他の多くの方々と一緒に活動しました。



災害ボランティアセンター本部です。

6月24日～26日 第2回目 南三陸町にて



災害ボランティアセンター受付です。
個人、団体とも多くのボランティアさんがここで受付を行います。



登録受付の窓口です。
依頼者からのニーズに応じて、様々な活動を行います。



津波により、がれきが山に残っているため、片付けを行いました。



無事に作業できるよう注意しながら、木・鉄など分別しました。

7月1日～3日 第3回目 南三陸町にて



個人宅の瓦礫の撤去作業



重い柱は2人で運びます。安全第一！



服部市長が元歌津町長(南三陸町合併前)と視察にこられました。



網、不燃物、木材等に仕分しました。



津波の無残な爪跡を残す南三陸町防災対策庁舎。



南三陸町防災対策庁舎へ献花に伺いました。

7月8日～10日 第4回目 南三陸町にて



志津川自然の家(避難所)に戻って昼食をとるために、マイクロバスに向かうところです。



上から見た被災者宅です。後の草刈作業です。



午後の被災者宅の斜面地の草刈の様子です。被災者のご夫婦の方からお話を伺うことができました。津波は正面の海から、背後の山を越えて来たそうです。大震災のときは、海辺で仕事をしていましたが、津波は巨大な水の壁で迫ってきて、急いで内陸の山に向かって車で避難されました。途中、直接津波の大きさを見ない人は逃げ遅れて、多くの方が犠牲になったそうです。



避難所が小高い場所にあります。



7月10日[日]10:00
カキいかだの砂利の錘作りの作業始めようとした時、漁師さんから「テレビで津波注意報10:20到達時間、高さ50cm避難したほうがいいよ。」と。早々、志津川自然の家(避難所)に避難しました。



津波注意報で待機しました。
志津川自然の家(避難所)の玄関脇に、積まれた薪を10mぐらい下の倉庫に運びました。
薪は避難当初に炊事に使ったそうです。
水は下の沢水を使って炊事・洗濯をしたそうです。
今は隣の登米市の給水車が給水に来ています。



ホテル観洋は淡水化プラントで営業しています。
二日間活動を終えた、鍼灸マッサージ師の皆さん、これでバスに全員そろって帰路に着きました。
50人ぐらいの避難者に施術され喜ばれました。

7月15日～17日 第5回目 山田町にて



朝霧の釜石市内です。
これから山田町に向かいます。



7月16日、大沢漁港のそばの宅地のガレキの片付けです。依頼者がお孫さんと見にこられて、これから生きる励みになると、とても喜んでおられました。



ガレキの片付けは、大きい木・金属・コンクリート・ブロック、細かいガラス・プラス・木片紙類は土のう袋に入れ道路際におきました。



7月16日、同じ場所で作業をしました。飯田市社協と茅ヶ崎市社協(みどりのチョッキ)のボランティアの合同写真です。お疲れ様でした。



7月17日、茅ヶ崎市社協のボランティアの集合写真です。



7月17日、織笠地区の宅地の瓦礫の片付けです。

7月22日～24日 第6回目 山田町にて



山田町ボランティアセンター、朝の受付の様子。作業のマッチングを待ってます。



作業の開始前、大沢漁港の近くの依頼主さんからお話を伺いました。ご家族は全員無事でしたが、家業のホタテとカキの養殖場が津波により、大きな被害を受けたそうです。



宅地は50坪ぐらい、すでに大きなものは重機で取り除かれています。
厚さ10cmぐらいはある津波が運んできた乾いた土砂の中に、大小さまざまに木、コンクリート・ブロック、ガラス、金属、食器、紙・布類など生活用品がたくさん埋もれています。
土砂を掘り起こし、ふるいにかけて砂は落として、細かいものを土のう袋に入れて回収します。



土曜日は曇りで、風もあり、熱中症の心配やけがもなく無事に作業が終了しました。
作業は9時から4時まででした。



山田町ボランティアセンターの朝9時前、道具班が現場で使う道具を確認しています。



日曜日の作業では、依頼者の奥さんは立ち会われました。
「現在、家族は全員無事で、親戚宅など3ヶ所に分かれて生活をしている。
当初感じなかったが、今、現状を見ると情けなく感じるようになった」とのこと。
今できることは、みんなで宅地をきれいに片付けることです。
土砂をふるいにかけて砂は落として、細かい木・ガラス・プラスチック類などを回収しました。



山田町ボランティアセンターで作業がすべて終了し、集合写真を撮りました。
神奈川県災害ボランティアネットワーク隊の人が撮影していただきました。

7月29日～31日 第7回目 釜石市にて



ボランティアセンターにはヘルメット、長靴等各種作業道具がありました。



2日間同じ場所で活動をしました。瓦礫を撤去して子どもたちの広場にしたいと依頼者が話してくれました。1日目は雨のため13時に活動を中止しました。



雨のため、依頼者のお宅で昼食のお弁当を頂くことになりました。ころよく場所を提供してくれました。

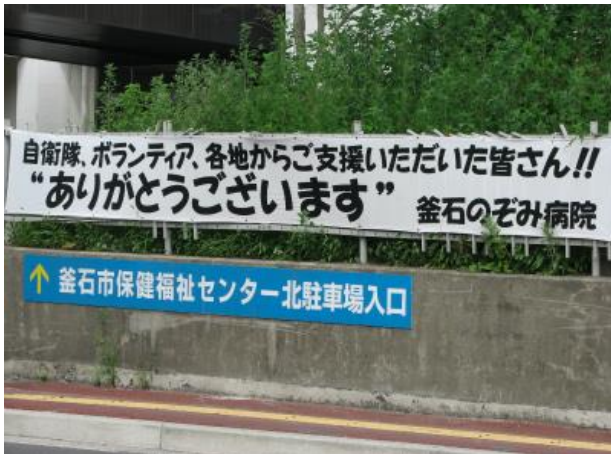


参加者の1人がスーパーの軒をかりて大道芸を披露しました。



2日間悪天候の中作業をしました。依頼者とともに集合写真を撮りました。

8月5日～7日 第8回目 釜石市にて



上記のような掲示を会場に向かう際、至るところで見受けられました。こちら感謝の気持ちでいっぱいです。



ボランティアの開所直前の様子。多くの団体、個人ボランティアが待っていました。



初日は、個人宅の草取りおよびがれきなどの撤去です。22名のボランティアさんが役割分担して、作業にあたりました。



一日活動した結果、生い茂った雑草も大半を刈り取ることができました。



様子を見に来て頂いた依頼者と一緒に記念撮影。直接、お礼を言っていただき、ボランティアのみなさんも喜んでいました。



2日目のボランティアは、家屋内の畳の処分および掃除でした。釜石市内から参加されたボランティアさんと一緒に活動しました。震災当時の津波の様子を伺いました。



家屋内から全ての畳をトラックに運ぶことができました。
残りの作業を他のボランティアさんに引き継ぎ、
災害ボラセンに戻りました。



活動報告を終え、受付前で記念撮影。
無事に怪我なく、ボランティアを行なうことができました。